勝手にメルヘン！

迦陵れん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
勝手にメルヘン！

【Ｎコード】
Ｎ６４７４Ｆ

【作者名】
迦陵れん

【あらすじ】
部屋の大掃除をした事がきっかけで、童話の世界へと足を踏み込んでしまった達也。達也は男なのに、なぜか童話の世界では主人公として話が展開していく。まったく話が通じない童話の世界の住人相手に、達也は無事現実へと戻ってくることができるのか？

これが始まり

時は師走、そして今日の俺はありえないぐらい暇だ！　っつーことで、いきなり思い立って部屋の大掃除をすることにした。
そもそも掃除とはまったく縁がない俺。
ふと部屋を見渡してみれば、見事に足の踏み場がない。いや、わざわざ見渡さなくても知ってるんだけどね。
なんせ毎日ベッドと部屋の入り口を往復するのに、四苦八苦してるんだから。
あまりの惨状に耐えかねて、稀に母親が掃除してくれるんだけど、今回は三月待ってもそれがなく、お陰で部屋は目も当てられない有様だ。
だったら自分で掃除しろよ！　って思っただろ？
だからこうして、今から掃除をしようと思い至ったんじゃないか。
この際だから、三ヶ月も掃除しないでほっぽっておいたってとこには触れないでくれ。
せっかくやる気を出したのに、つまらない事にこだわって放り出したんじゃ、このままの状態で年を越す事になっちまう。
いくら面倒くさがりの俺でも、さすがにそれは避けたいわけで。
年明け早々、見るも無残な部屋なんて誰も見たくないだろう？

「そんじゃ、ぶつぶつ言っててもしゃあねぇし、片付け始めましょうかね～」

独り言という名の現実逃避からようやく抜け出し、張り切って腕まくりをする。……までは良かったが、あまりの寒さに鳥肌がたち、すぐさま袖を引きおろした。

「さみっ！　腕まくりとか洒落になんねぇ……」

それだけで、早くも意欲を削がれたような気がしないでもなかったが、ここでやめたら本当に汚い部屋で年越しをしてしまう。
俺は気を取り直すと、部屋の入り口に立って室内を見回した。

「さて、どこから片付けようかな……」

どこもかしこも滅茶苦茶で、どこに最初に手をつけていいのかまるで分からない。
しかし、俺は几帳面と言われるA型だ。ここは几帳面らしく、部屋の隅から順に片付けよう。
まずは部屋の入り口からベッドまでの通路を確保だ。

「よし、やるぞ！」

第一弾の目標を定め、ゴミ袋を用意してせかせかと動き出す。

「これはあっちで、こっちはあそこで、でもってこれは……保留っと」

置き場に迷った物は、とりあえずコタツの上へ。
片づけを進めるうち、コタツの上がどんどん山盛りになっていっている気もするが……うん、これは気のせいだな。見なかったことにしよう。
微妙に現実から目を背けつつ、それでも着々とベッドへの通路を確保していく。
そしてとうとうベッドまで後一歩というところに来た時、何冊もの本の束が目の前に現れた。

「おお、これは童話シリーズ！」

なぜ俺の部屋にこんなものがあるのかは分からないが、ベッドから下りる時のいい足場として使っていたものだ。
踏みつけた感触から、本だということは知っていたものの、まさか童話だったとは……。

「でも、なんか懐かしいな」

自分で読んだ記憶はあまりないが、遠い昔に親に読んでもらった記憶が、微かにだが残っている。
片付け途中にこういったものを見つけると、ついつい目を通してしまうのが人の性というもので――俺も当然、その類に漏れなかった。

「とりあえず、どれから読もうかな……」

山となって積んである本の背表紙をざっと眺めて、タイトルを確かめる。
シンデレラ、白雪姫、眠りの森の美女――。

「なんだよ、お姫様系の話ばっかりかよ」

久しぶりに読んでみようと思い至ったものの、俺は男だ。さすがにお姫様系のものから読み始めるのは、遠慮したい。
となれば、ここはやっぱり…。
背表紙を睨みつけ、順番通りに並べられているかを確認する。

「性格的に、上から順番しかないよな……」

元々俺は、何事も一から順にこなすのが好きな性質なんだ。特別

な場合以外は、大抵いつも順番通りに物事を進める。
もしも途中から進めようものなら、最初が気になって気になって……まぁ、典型的な『A型』ってやつだ。多分、きっと、そうに違いない……筈。
ああ、もう！　そんなことはどうでもいい。
とにかく俺は、一番上の本を手に取った。
タイトルは……『みにくいあひるの子』。

「確かこれって、最後白鳥になるやつだよな……。途中が悲惨すぎてあんま気に入らないが、まぁ読んでみるか……」

気は進まないながらも取り合えずベッドに座り、おもむろに表紙を開く。
刹那、本の中から強烈な光が溢れ出してきた。

「なんだよ、これ……っ！」

突然のことに本を閉じる余裕もなく、見る間に強くなる光が眩しくて目を覆う。
けど、そんな指の隙間からも光はどんどん漏れ出してきて。
ついには目を開けていられなくなり、俺は強く目を瞑った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6474f/

勝手にメルヘン！

2010年10月15日22時09分発行